

バンコクでの建築ワークショップに参加して

明治大学大学院理工学研究科建築学専攻博士課程前期
国際プロフェSSIONALコース

林田咲紀

1月初旬バンコクの明治大学アセアンセンターで、タイのチュロンコーン大学（以下 INDA）、国立シンガポール大学（以下 NUS）、明治大学国際プロフェSSIONALコース（以下 I-AUD）合同の国際建築ワークショップ（以下 WS）が開かれた。テーマはバンコク南西部サファンブラ再開発地域へ、建築学生としての考察と視点をもって新たな解決策を提案しようというものだ。合計3大学から集まった50名弱の学生が7つのチームに分かれてWSを行った。



後列左から二人目が筆者

私たちの班は船の修理工場だったエリアで、産業遺産をどう残し何を新たに提案していくかという内容だった。

I-AUD3名、NUS2名、INDA2名という大変国際色豊かなメンバーで、同じスピードで案を練ったり、進めたりすることがなかなか難しく感じることもあった。そこで私たちは、言葉で説明するだけでなく沢山スケッチを描いて案を伝え合い、煮詰まると各々が案を一人で考える時間を集中してとることで、案を深めていった。開始から発表まで6日間という短期のワークショップだったが、有意義な話し合いを通して、大変意味のある提案が出来たと自負している。

私は学部生のころから国際WSに4つほど参加しているが、今回のワークショップは初日に明らかにいままでとは違った手応えを感じた。初めの頃は英語で意思疎通することで精一杯だったが、数多くのWSを通して都市スケールから建築まで短期間で掘り下げて考え、国を問わず様々な学生たちと検証を重ねることができるようになってきたからだろう。

学生にとってWSは実践的で大変勉強になるが同時に実力が試されるので緊張する場もある。このような機会を複数経験することで、自分に足りない力を認識し、刺激を受け、実力をつけられる。その積み重ねで、私たちは世界に羽ばたく力を身につけていけると信じている。